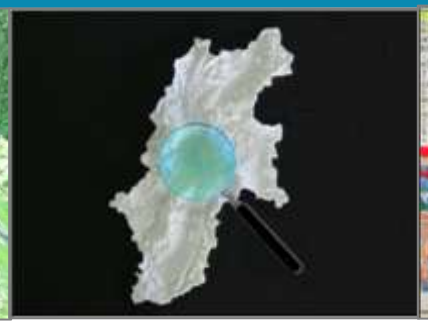


2023年1月21日（土）

学習会 「図書館のデジタルアーカイブ Part II ～県立長野図書館の取組」
図書館問題研究会長野支部 主催

信州の「地域情報資源」をより豊かにしていくために
県立長野図書館の取組

CC BY SA
県立長野図書館　森 いづみ、 槌賀基範

本日の内容

１．これからの図書館に期待される役割
～「地域情報資源」と「デジタルアーカイブ」～

２．「信州ナレッジスクエア」の活用について

３．「デジとしょ信州」への地域資料の搭載について　（スライド34まで）

４－１．「信州デジタルコモンズ」へのコンテンツ搭載方法
４－２．「eReading Books」へのコンテンツ搭載方法
（槌賀さんより）

５．質疑応答
県内市町村図書館に対する今後の方向性など　（参考：スライド35から）

「地域情報資源」の考え方

- 「地域資料」の定義
  - 『地域資料入門』（1999）
    - 当該地域を総合的かつ相対的に把握するための資料群
    - 地域で発生するすべての資料、および地域に関するすべての資料
  - 根本彰 『情報基盤としての図書館』（2002）
    - その地域で発生する情報は、その地域の公共図書館しかできない仕事であり、その図書館が最終的な責任を持つ。（中略）地域資料サービスは、地方分権の動きの中で、図書館を再評価する一つのきっかけになる仕事。
  - 図書館情報学用語辞典 第5版（2013）https://kotobank.jp/word/郷土資料
    - 「郷土資料」として：図書館の所在する地域や自治体に関係する資料。地域資料ともいう。現在の公共図書館は，その地域についての資料を責任を持って収集することが業務の一つとして位置付けられており，それらのレファレンス質問に答えることも重要な業務となっている。

従来から、
重要な業務・サービスと
位置づけられてきた

- 「情報資源」の定義
  - 情報の中で、利用者やシステムが利用時に価値を認めた情報
  - エネルギー資源、不動産資源、物質資源と並ぶ用語

※出典 「情報資源・マルチメディア社会の将来に向けて」 平成12年2月28日 日本学術会議 情報資源・マルチメディア専門委員会

「地域情報資源」と「デジタルアーカイブ」

● 「地域情報資源」とは

- 地域を総合的かつ相対的に把握するための価値ある情報資源（地域で発生するすべての資料・情報、地域に関するすべての資料・情報）で、デジタル化されたものも含む

● 地域の公共図書館の重要な役割として

- 図書館の3要素「資料・情報」「空間・場」「人」を生かし、関係者と連携しながら
  ① ボーンデジタル情報も含め「収集」「整理」「保存」「提供」し、レファレンスにおける利用も含めて「活用」する
  ② 所蔵している地域情報資源を「デジタル化」「公開」する
  ③ 新たに地域情報資源を「創出」したり「継承」する活動の場になる
- 上記①～③を「地域情報資源サービス」と位置付ける

「地域情報資源」と「デジタルアーカイブ」

- 「デジタルアーカイブ」は「地域情報資源サービス」実現の有効な手段の一つ
  - 狭い意味のデジタルアーカイブは、県立長野図書館では「信州ナレッジスクエア」の中の「信州デジタルコモンズ」が相当する
  - 「地域情報資源サービス」の実現という観点では、手段は多様化している
  - 紙や様々な媒体の「地域情報資源」も含めて、トータルで考えることが大切なのではないか

※デジタルアーカイブの定義

- 図書館情報学用語辞典 第5版（2013）https://kotobank.jp/word/デジタルアーカイブ

有形・無形の文化財をデジタル情報として記録し，劣化なく永久保存するとともに，ネットワークなどを用いて提供すること．最初からデジタル情報として生産された文化財も対象となる．

図書館が「地域情報資源」の「創出」にまで関わる根拠

● 公立図書館の任務と目標 （日本図書館協会1989年公表、2004年改訂）

✓ 公立図書館は，乳幼児から高齢者まで，住民すべての自己教育に資するとともに，住民が情報を入手し，芸術や文学を鑑賞し，地域文化の創造にかかわる場である。

インプットだけではなく
アウトプットまでが
守備範囲

すべての年代の
人々の「知る・学ぶ・
創造する」場

賑わい創出、地域の課題解決など、
図書館という公共施設の
機能拡張への期待へとつながる

✓ 「地域文化の創造にかかわる」とは、情報が蓄積され、活用され、新たな「知」が生み出され、それがまた蓄積されていくという、「知」の循環を促していくこと

⇒「デジタル化」で、「空間・場」としての図書館の空洞化が起こるのでは？という懸念とは逆に、デジタルの力（特色）を活用することで、図書館という「空間・場」は、もっと活性化し、地域にとってなくてはならない存在になっていくのではないか

※ 自治体が設置する「公立図書館」と、法人等が設置する「私立図書館」を総称して「公共図書館」と呼ぶ。

「信州ナレッジスクエア」（「信州デジタルコモンズ」）が生まれた背景

● 「信州デジタルコモンズ」の前身
地域文化の総合情報システム
『**信州デジくら**』
2010（平成22）年4月運用開始

● 画期的なコンセプト
デジタル化した古文書等や各種映像記録、県民からの投稿によるデータの発信窓口としての機能を持ち、歴史館、図書館、美術館の所蔵データを一括検索できる総合情報サイト

・システム構築：
「地域ICT利活用事業交付金」
・コンテンツ（デジタルデータ）作成：
「ふるさと雇用再生特別基金」活用

● 外部資金の獲得による運営
⇒データ更新、継続が困難に
・今後の方策を考えたい ⇒
・もっとお互いに連携し合おう ⇒

「信州　知の連携フォーラム」とは

●はじまり
- 2016年、長野県立歴史館、長野県信濃美術館、信州大学附属図書館、県立長野図書館の四者でスタート

●目的
- 長野県における知と学びに関わる各種機関が、信州における価値ある地域資源の共有化をはかり、新たな知識化・発信を通して、地域住民の学びを豊かにし、地域創生につなげていく

●方向性
① 電子情報の共有化と新たな発信の展開
② ①に伴う新たな人材育成

いわゆるMLA
連携の枠組み

当時お茶大で学内MLA連携
を担当→キックオフのフォーラムに参加

四館長のそろい踏み
⇒新しいことが始まりそう！

※森いづみ他,「信州 知の連携フォーラム」におけるMLA連携の試み：長野県内の図書館・美術館・歴史館の取組.
大学図書館研究. 112 < https://doi.org/10.20722/jcul.2041>

「信州ナレッジスクエア」（「信州デジタルコモンズ」）が生まれた背景

「信州　知の連携フォーラム」とは

●平賀前県立長野図書館長による「信州 知のプラットフォーム構想」

⇒プラットフォーム（システム的な受け皿）があれば、他の機関（県や市町村のMLA）は、載せるコンテンツ創りに注力できる

⇒トータルコストは小さく、豊かな共有財（コモン）が育てられる

NIIと大学図書館の関係に似ている？

※県立図書館は、住民への第一線のサービスを行う市町村図書館を支える役割を持っている
図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成24年文部科学省告示第172号）「域内の図書館への支援」

第1回～
第2回フォーラム
2016～2017年度

第3回フォーラム
(第1回リレーWS)
2018年度

「信州ナレッジスクエア」構築
2019年度

第4～5回フォーラム(第2～3回リレーWS)
2020～2021年度

絵に描いた餅 → 食べられる餅へ → 美味しい餅へ → 豊かな学び・地域創生 / 新たな知識化・発信 / 地域資源の共有化

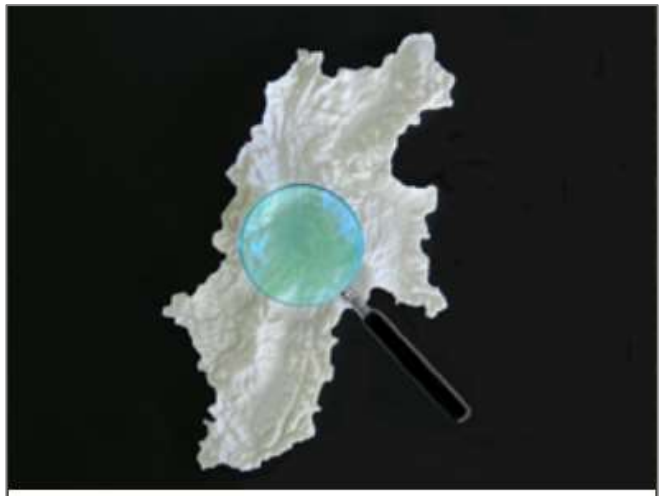
2016年の
初回の発表

2019年に
「信州ナレッジ
スクエア」として
実現

フォーラム第6回
(リレーWS第4回)
県立美術館が
当番で企画中

※森 いづみ「大学図書館から公共図書館に飛び出して考えたこと～信州 知の連携フォーラムをきっかけに～」大学図書館研究会　関東地域グループ合同例会（2022年2月5日）
https://researchmap.jp/izumimi/presentations/36314029

「信州ナレッジスクエア」とは／「信州サーチ」



信州サーチ

世界から信州を探そう

県内外のデータベースやアーカイブの中から「信州」に関することがらを探し出すことができます。上の検索窓から検索できます。

- 「ナレッジスクエア」＝「知識の広場」。5つのサービスの総称。
- 多様な文化を持つ信州各地に蓄積されてきた「地域情報資源」のポータルサイトとして、2020年3月に運用開始。
- **地域情報資源の「発見・公開」を実現する、情報基盤**（プラットフォーム）としての役割に加え、**「創造・継承」の場としての役割**も併せ持っている。

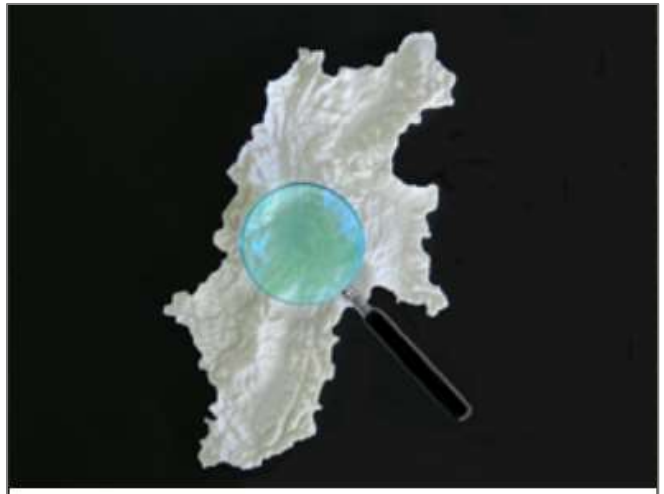
信州サーチ
「情報発見」の仕組み

- 19のデータベース、アーカイブが検索対象（今後も、対象を拡張予定）
- アーカイブ
  - 信州地域史料アーカイブ（NPO長野県図書館等共同機構）
  - 信濃史料データベース（長野県立歴史館）
  - 木曽町図書館デジタルアーカイブ（木曽町図書館）
  - ジャパンサーチ（国立国会図書館）
  - 伊那市デジタルアーカイブ（伊那市）
  - 信州デジタルコモンズ（県立長野図書館）

※「信州サーチ」検索対象一覧：
https://www.knowledge.pref.nagano.lg

下諏訪町さん、
軽井沢町さんの
デジタルアーカイブが
未だ対象になっていない
（d-commonsとの
連携について
カーリルと相談中）

「信州サーチ」（つづき）



- 収蔵情報
  - 長野県立歴史館（文献史料）（絵図・地図）（図書）収蔵品データベース
  - 長野市立博物館Web公開システム（長野市立博物館）
  - 真田宝物館収蔵品データベース（真田宝物館）
  - 飯田市立図書館所蔵貴重資料（飯田市立図書館）
  - 松本まるごと博物館収蔵品（松本市立博物館）
- 図書・論文
  - 全国遺跡報告総覧（奈良文化財研究所）
  - レファレンス協同データベース（国立国会図書館）
    （トップページ下部・テーマから探す →「地名：長野県」が対象）
  - 信州ブックサーチ（県立長野図書館）
- 文化財
  - 松本のたから（松本市の文化財）（松本市）
- リポジトリ
  - 信州共同リポジトリ（信州共同リポジトリ）
- 文化・芸術情報
  - CULTURE.NAGANO（カルチャー・ドット・ナガノ）（長野県）

「信州デジタルコモンズ」（いわゆるデジタルアーカイブ）

実際の方法を
後半でご紹介

「情報公開」の仕組み

- 信州の人々が営んできた身近な生活の記録を画像や映像で残し、「知の共有地」として活用するデジタルアーカイブ
- 県立歴史館、県立美術館、県立図書館が所蔵するコンテンツ（文化財、史資料のデジタル版）のほか、信州各地の文化をテーマにした動画等が公開済み（「信州デジくら」の後継）
- 県内MLA（Museum, Library, Archives）機関が**所蔵するコンテンツ**に加え、**公民館等の社会教育施設、学校、民間の持つ地域情報資源や活動の成果も対象**としている。
- **登録できるコンテンツ**：
  - 画像、音声、動画が対象となっていたが、1月から**PDFが搭載できる**ように機能拡張を行った。
  - 従来は難しかった、各機関による**行政資料や広報資料、成果発表資料なども公開が可能**となった。

「信州ナレッジスクエア」の「信州サーチ」→「信州デジタルコモンズ」を使ってみる

https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/index.html

SHINSHU KNOWLEDGE SQUARE

生坂村

- 信州サーチ -
信州の文化資源を
まとめてさがす

12件見つかりました。

絞り込み

- すべて
- アーカイブ
- 収蔵情報
- 図書・論文
- その他

POWERED BY カー

生坂村絵図面

資料コード	03MP0801060150
タイトル	生坂村絵図面
分野	歴史 建造物
場所(市町村名)	生坂村
制作年(西暦)	1885
制作年(和暦)	明治18年
時代	明治
制作者	長野県
制作者（ヨミ）	ナガノケン
大きさ	27×69
資料解説	
二次利用条件	PUBLIC DOMAIN
コピーライト	長野県立歴史館
施設名	長野県立歴史館

例：信州サーチで
「生坂村」を検索し、
「アーカイブ」で絞り込み
→信州デジタルコモンズ
「生坂村絵図面」

パブリックドメイン：
地域の歴史を学んだり、
二次利用して
新しいコンテンツを創る
材料として活用可能

知識が循環し、創造されていく基盤としての「信州デジタルコモンズ」

- 公的な機関だけではなく、地域の活動から生み出されるコンテンツも受入対象とする
  「信州デジタルコモンズ」運用規程、「信州デジタルコモンズのデータ登録に関する確認事項」を公開
  https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/portal/guide.html

情報の蓄積

知の増殖型サイクル：
デジタルアーカイブの
知を利用し、
新しい知を創造する
→課題解決に生かす

古い写真を
「どこコレ？信州篇」の
イベントで展示し、
集まった情報を
メタデータに活用？
（検討中）

活用した成果＝新たな知が生み出され、蓄積・循環

情報の活用

まつもとフィルムコモンズ
松本で撮影した8mmフィルムを
募集し、デジタル化して新しい
地域映画を作成
→信州デジタルコモンズで
二次利用可能な形で公開
（検討中）

駒ケ根市
東伊那公民館の
「区史」編纂の現場に
スキャナを持って
参加（調整中）

MLAK連携に発展？
Museum, Archives,
Library, Kominkan

DIGITAL ARCHIVE JAPAN AWARD

デジタルアーカイブジャパン
アワード

信州デジタルコモンズ
県立長野図書館 殿

貴殿はデジタルアーカイブが
日常に溶け込んだ豊かな創造的
社会の実現に向けてデジタル
アーカイブ活動の活発な取組を
通して多大な貢献をされました
よってその功績をたたえここに
表彰いたします

2022年8月25日

デジタルアーカイブジャパン
推進委員会実務者検討委員会

「つなぎ役」「二次利用しやすい形での
情報公開」を評価していただきました
https://blog.nagano-ken.jp/library/2022/08/26/

「どこコレ？ 信州篇」 地域情報資源を「創出」「継承」する事例

- **「どこコレ？」**とは、撮影された場所がわからない古い写真を集め、地域の方々の経験や知恵によって、撮影場所を確定していく展示イベント。仙台メディアテークで始まりました。
  - 地域の歴史を知ったり、世代を越えた会話が生まれたりすることが魅力
  - 特定された情報が、デジタルアーカイブのメタデータとして活用できることにも期待

- フォーラム『まちの記憶を記録する ～「どこコレ？」のつくりかた～』
  https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/now/mezasukoto/torikumi/mlaforum_202107.html

信州篇のこれまでの実績

- 県立長野図書館@信州・学び創造ラボ
  - 2019年4月～6月
- 市立小諸図書館@ひだまりの広場
  - 2021年10月
- 信州大学@松本市中央図書館１Fロビー
  - 2022年8月～9月

←↑ 市立小諸図書館の様子

「eReading Books」（付加価値付き電子書籍）

「情報公開」の仕組み

- 教材、ガイドブック等のキーワードが自動的に切り出され、Wikipediaや新書マップの情報と繋がる。
- テキストデータ付きのPDFがあれば、付加価値を付けた形での電子書籍として公開できる。
- 高校の探究学習『わたしたちの信州学』のほか、小学校副読本『わたしたちの松川村』『池田ものがたり』が公開済み。

実際の方法を
後半でご紹介

「eReading Books」（付加価値付き電子書籍）

- 例：『わたしたちの松川村』 小学校の郷土学習の副読本。付加価値付きの電子書籍化
- キーワードから、ウィキペディアの該当項目や新書マップにリンク

紙のテキストに書かれている
のは、固定化された情報＝重要
しかし、情報の内容を更新するために
改訂版を出すのは、なかなか
ハードルが高い

ネットワーク上の信頼できる
情報にリンクしていれば、
より新しい情報にアクセス
することが可能！

「eReading Books」 地域情報資源を「創出」「継承」する事例

- 「ウィキペディアタウンin安曇野松川村」（2018.03.03）
  - ✓ 「大和田神社」、「安曇野ちひろ公園」、「松川村図書館」（以上、新規） 「安曇節」（加筆編集）の４項目を編集

https://blog.nagano-ken.jp/hokuan/events/7185.html
https://blog.nagano-ken.jp/hokuan/other/7337.html/

※詳細 棟田聖子氏（松川村図書館）
「電子図書館、どう育てる？」 令和４年度第１回信州発・これからの図書館フォーラム Youtube動画
１：４６：３６～ https://www.youtube.com/watch?v=AArREG-uH9k&t=7132s

- 「ウィキペディアタウンin池田町」（2021.11.28）
  - ✓ 池田学問所、池田八幡神社（以上、新規）、浅原六朗（加筆修正）の４項目を編集

https://blog.nagano-ken.jp/hokuan/events/15630.html

- まち歩きをして現地を訪れたり、根拠となる文献を調べて編集したウィキペディアの事項に地域を学ぶテキストの「eReading Books」からリンクできる
⇒地域を学ぶこと地域情報を創ることで「知の循環」が起こっている

「想・IMAGINE・信州」／「信州ブックサーチ」

想・IMAGINE・信州

「情報発見」の仕組み

- 言葉や文章から連想して、複数のデータベースを検索。キーワードそのものではなく、そこからの連想で検索するので、幅広く様々な情報を発見することができる
  - 対象DB:県立長野図書館蔵書、新書マップ、WebcatPlus、ウィキペディア

信州ブックサーチ

「情報発見」の仕組み

- 長野県内図書館OPACの横断検索システム→電子書籍2種「市町村と県による協働電子図書館：デジとしょ信州」と「県立長野図書館電子書籍サービス」も検索対象になっている。

「信州ブックサーチ」の活用による、蔵書＋電子書籍の検索・発見の仕組

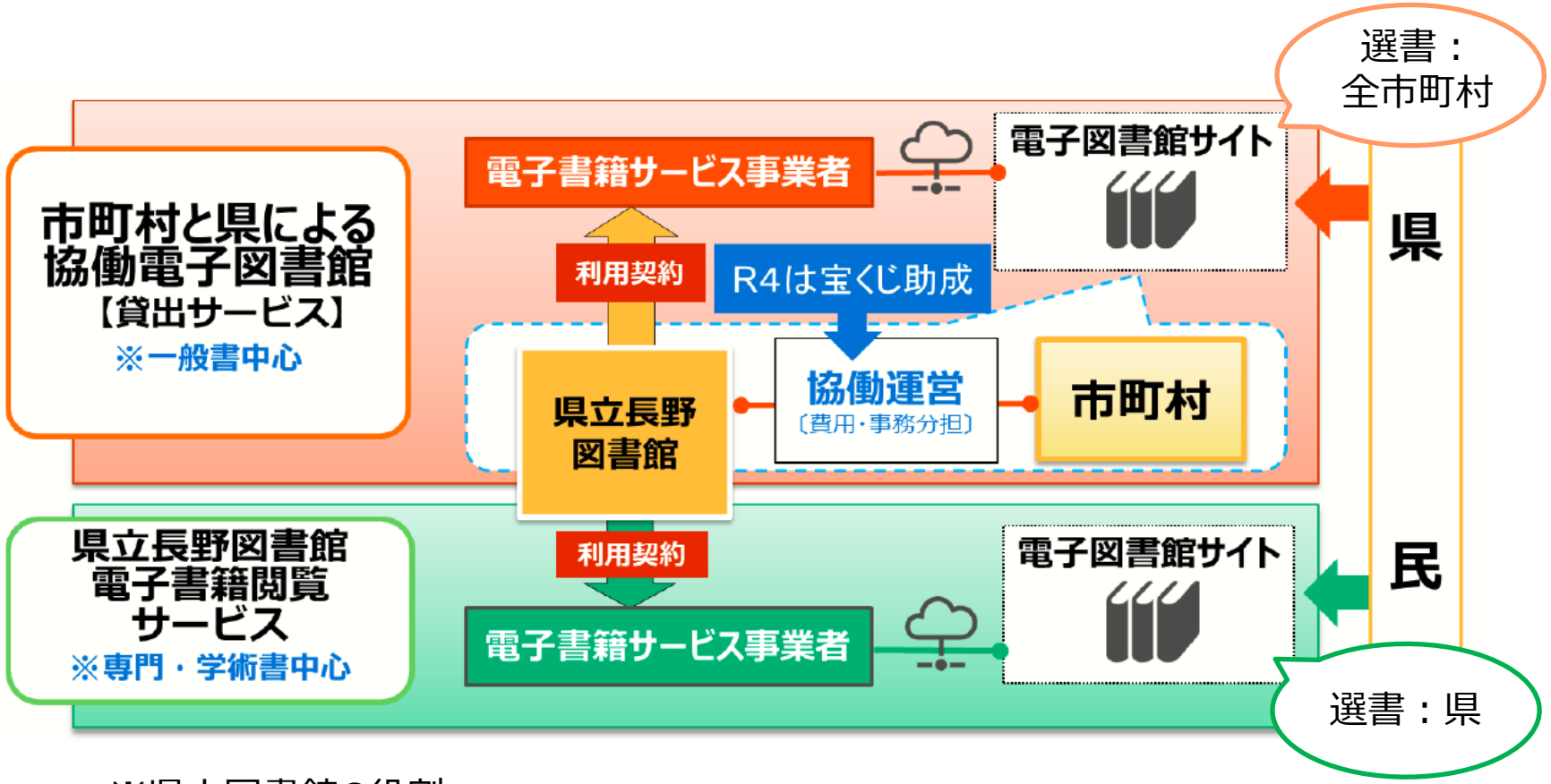
- 県内公共図書館のOPAC, 2つの電子書籍を一括で検索できる

県内の
書店情報に
繋げられないか
検討中

2つの電子書籍サービス：市町村と県、それぞれの役割を果たすための二層構造

- 「一般書の電子書籍貸出サービス」として、株式会社メディアドゥ「OverDrive」
- 「専門書の電子書籍閲覧サービス」として、株式会社紀伊國屋書店「KinoDen」

プロポーザルを
実施



長野県　令和４年度
当初予算案における主要施策

暮らし･行政のＤＸの推進
デジタル技術を活用した利便性の高い地域づくりを実現するため、暮らしや行政のデジタル化を推進

生活の場でのＤＸの推進
電子図書館サービスの提供
3,857万8千円 ⇒教育委員会

(新)市町村と協働で電子書籍貸出サービスを提供するなど、自由に本にアクセスできる環境を整備

※県立図書館の役割（参考：図書館の設置及び運営上の望ましい基準）
- 第一線の住民サービスを行う市町村を支援つつ、自ら住民サービスを実施
- 調査専門図書館としての役割
- 郷土資料を網羅的に収集保存提供する役割

県内公立図書館現場における電子書籍に対する課題認識

「電子図書館」導入は単独では難しいという声が多く、自治体間連携に期待あり

「電子書籍貸出サービス」に関するアンケート結果
※令和3年1月実施、長野県内の公立図書館56が対象。回答率100%

【各種コメント】
- 具体的ではないが、導入の意向は持っている。
- 村議会一般質問にて議員より質問があった。
- 資料デモや業者説明等、職員の研修を開催したものの導入には壁が多すぎる。
- 図書館が浸水被害に遭い、必要性を痛感している。

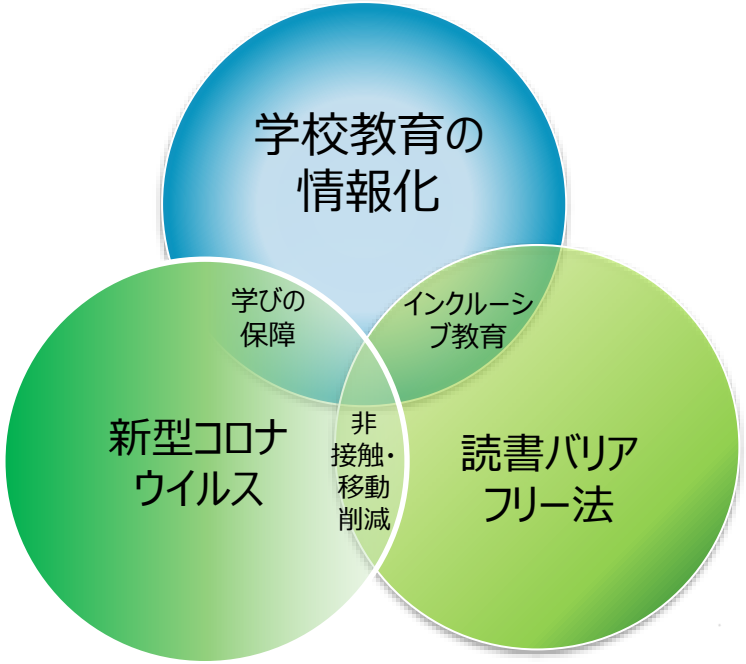
- **導入検討状況**：
  - ✓ 導入済：1 館、検討中：11 館、未検討：40 館、その他：4
  - ✓ 「単独での導入が望ましい」としたのは 3 館
- **導入に向けての課題**：
  - ✓ 「予算の確保」約 9 割、「運用方法に関する懸念」約 8 割、「コンテンツに関する懸念」が約 7 割
  - ✓ 「利用環境」や、そもそも「住民ニーズ」があるのか、という懸念も 5 割超
- **望ましい導入の方法**：
  - ✓ 「コンテンツの選定、利用方法の検討、利用支援のあり方等について、市町村を越えた連携ができること」が7 割
  - ✓ 「試行的にサービスが行えること」や「複数の市町村が連携して導入できること」が 5 割超
- **市町村と県による協働事業として事業化を目指す根拠に**

電子書籍サービスの新規導入に向けて

そもそも図書館の本来の役割は

- **すべての住民が自由に「情報」へアクセスできる基盤をつくること**

- **学校の教育課程の展開に寄与**
- **児童生徒の健全な教養の育成**



３つの社会課題に同時に向き合う手段の一つが「電子図書館」

- **しかし、単独では予算面、運用面でハードルが高い**

市町村と県とが協働して電子図書館のサービスを構築できないか

図書館利用率：住民の3割程度→残りの7割へのアプローチ！

✓ **書籍へのアクセスを保障**

「感染状況」「災害」等になるべく影響されず、図書館サービスを提供し続ける環境をつくる。

＋

✓ **リーチを拡げる**

「地理的条件」「生活スタイル」「特別な配慮の要否」等により　図書館を利用しにくかった人たちにサービスを届ける。

自治体を越えた図書館間連携

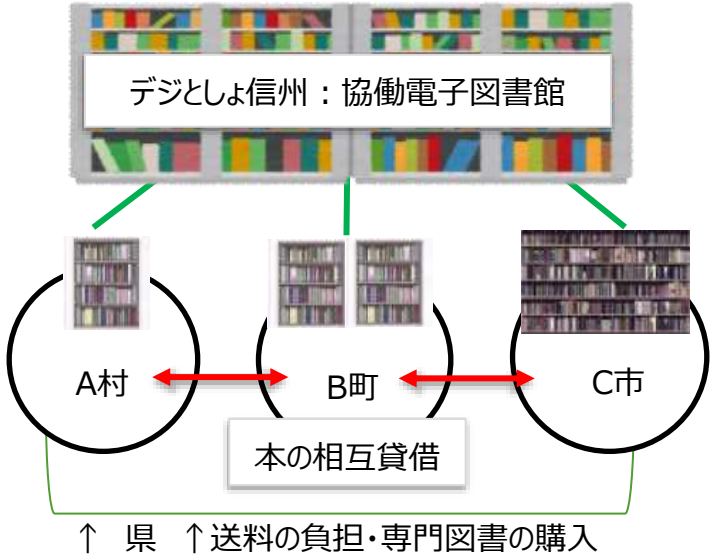
従来からの協力体制の延長線上に、新しい図書館間連携体制を築く

- 共通の課題を解決する方策として、協働電子図書館（仮称）によって、さまざまな「情報格差」の解消を図る。
- 電子化で生じる「情報格差」も起こり得るため、広報や利用支援も協働で取り組む。
- 「誰一人取り残さない」「持続可能な地域・社会」を実現する方策として関係各所の連携を視野に入れる。

解　決　策

ハイブリッド図書館の場合

■「電子書籍サービス」を全市町村と県が協働して提供
＝**住民サービスの充実**



■メリット
- 蔵書の不足分の増強。付加価値のあるコンテンツ。
- 紙と電子との組み合わせでスペース問題が軽減。
- 図書館が未設置でも電子書籍が使えることで学びの環境が強化。
- 図書館の利用をしていなかった潜在的な利用者層への呼び水となる（読者層が広がる。図書館利用の契機になる）。

■期待される効果
- いつでもどこでも情報アクセス
- 情報格差の解消へ一歩前進
  →学びの多様化・学び手の増加
  →各自治体の活力増進に期待！

目的や好みに応じて使いたい媒体を選択

来館でも非来館でも選択の幅を拡げる

協働事業「デジとしょ信州」のコンセプト　（プロポーザル説明資料より）

- 市町村図書館と県立図書館との**従来からの役割分担を活かし**ながら、全県民を対象としたサービスを可能にするための枠組みです。
- 全県的に、より多くの豊富なコンテンツを整備し、**県民にとって身近なサービス拠点**を作ることが重要です。このため、全ての市町村（条例による図書館未設置自治体を含む）と県による事業として構築しています。
- サービス運用にかかる**個々の自治体の負担を軽減し、ノウハウを共有**できることも重要です。例えば、利用申請のしかたや、広報のしかたなどはひな形を協働で作成して、各自治体で展開します。
- 各自治体が、これまでの図書館サービスと電子図書館を組み合わせ、**主体的かつ全体的な視点で取り組める**枠組みであることも、大切です。
- 5年間の事業（試行2年、本運用3年）で実績を分析・評価し、その後のサービスのあり方について検討・見直しを行います。

R4年4月～：運営委員会体制（全体会議・総括会議・部会＋チーム）

市町村と県による協働電子図書館 運営委員会

運営委員長
外部団体（メディア・組織等）折衝 / 委員会の招集

県立長野図書館長

運営委員会副委員長
事業のとりまとめ・委員会内意見調整

市町村の運営委員から互選

運営委員会委員
事業検討/ 資料作成/情報提供、意見調整など

信州協働電子図書館に参加する団体
＋県　＋オブザーバー
（事務局：県立長野図書館）

全体会議（全ての参加団体）

「運営委員会要領」第3条に定める
運営委員の1/2の出席により成立
重要事項の決定機関

「運営委員会要領」第4条に定める

運営委員長、副委員長、各部会長、参加団体及び長野県の推薦する者

総括会議
議長：運営委員会副委員長
実務面の決定機関
10名程度

読書バリアフリー
チーム員：3名

学校連携
チーム員：6名

オリジナルコンテンツ
チーム員：4名

「運営委員会要領」第５条に定める

利用登録部会
部会員：6名

利用者ID、利用登録にかかる事項
「運営規程」第6条に定める
「利用に関する要綱」
（「運用マニュアル」）
上記にかかる職員研修

選書部会
部会員：15名

コンテンツにかかる事項
「運営規程」第7条に定める
「コンテンツ選書基本方針」
「コンテンツ選書基準」
（「選書の手順」）
上記にかかる職員研修

利用者支援・広報部会
部会員：11名

「運営規程」第8条に定める
利用支援にかかる事項
「運営規程」第９条に定める
広報にかかる事項
上記にかかる職員研修

システム部会
部会員：5名

「運営規程」第10条に定める
システム運用の助言にかかる事項
各部会から1名は必ず参加する

「運営委員会要領」を改正（2022/11）
→部会を横断する課題解決チームの設置を第５条に定める

市町村と県による協働電子図書館（「デジとしょ信州」）2022年8月スタート

- 当初コンテンツ数：
  （青空文庫11,000点含む）18,000点以上→追加購入
- R4は市町村振興協会の宝くじ助成金をコンテンツ費として支給いただく（R4は負担金なし→R5から集める）
- 長野県内に在住・通勤・通学している人は、誰でも、いつでも、どこからでも利用可能

- 協働の役割分担：
  - ✓ 基盤的経費（初期設定費／プラットフォーム費）：県立図書館で契約・維持
  - ✓ コンテンツ費：77市町村の負担金（初年次のみ県・企業局こども支援経費からも拠出）

- 夏のDigi田甲子園：
  長野県代表の一つとして出場
  PR動画（1分）

  ⇒実装部門5位

  ⇒デジタル庁「デジタルの日」広報ポスターに起用

  ⇒早稲田大学マニフェスト研究所「地方創生カレッジ」からの取材

協働電子図書館の主なターゲット（「コンテンツ選書の手順（コンテンツ内容）」より）

- 利用対象は全県民
- 事業目的にそって、特に以下の利用対象に資することに留意する

✓ GIGA スクール構想等で、電子書籍を読むタブレット等を使いやすい環境にある児童および青少年

（IT リテラシーが高く、電子書籍を利用する障壁が低い傾向がある。
ただし、紙メディアや肉声の良さも考慮しながら、バランスよく活用していきたい）

✓ リアルな図書館に足を運ぶことが困難な高齢者や、読書に関わる障害がある方

（文字の拡大機能などがある電子書籍を、自宅などから居ながらにして利用できることで、読書環境が改善されることが期待できる）

✓ 開館時間に利用することが困難な子育て世代やビジネスパーソン

（24 時間 365 日、来館することなく使える電子書籍によって、図書館の利用が生活スタイルに馴染まなかった層の読書環境が改善されることが期待できる）

「デジとしょ信州」今後の重点取組事項：３つのチームを立ち上げて取組中

- 電子書籍サービス（インターフェイス、コンテンツ内容）の充実・予算の確保：
  - ビジネスモデルとコレクション構築のバランス、紙と電子のバランス（出版点数との兼ね合い）
- **読書バリアフリー**：
  - 視覚障がい者向け電子図書館サービス「アクセシブルライブラリー」の早期導入や、福祉関係団体と連携して障がい者向けサービスの総合的な展開の検討
  - 情報リテラシー向上
- **学校教育との連携**：
  - 教育現場や家庭等の方針に配慮しつつ、希望する自治体・学校と連携
  - 教材利用等、授業や読書推進活動、学校図書館との連携などの方策を検討
- **地域資料の充実**：
  - 学校の副読本、自治体作成のオリジナルコンテンツを電子書籍化、デジタルアーカイブ化
  - 地域出版物の有料コンテンツ化・アーカイブ化
- 著作権者や本に関わる関連業界（出版・印刷・書店・取次）とのWin-Winな関係作り

高森町の事例や、北海道の事例から、市販の電子書籍を提供／消費するだけではないあり方のヒントを得る

地域資料の充実が学校連携でも有効！

「デジとしょ信州」への地域資料の搭載について　先行事例に学ぶ：高森町の事例

- 現在、オリジナルコンテンツチームで「デジとしょ信州」の画面表示、登録方法を検討中
  - ✓ 従来、ファイル形式はePUB3のみだったが、新たにPDFが搭載可能になり、選択肢が増えている

「デジとしょ信州」への地域資料の搭載について　先行事例に学ぶ：高森町の事例

- 高森ほんともWeb-Libraryの地域資料

  - ✓ OverDrivenには、「ローカルコンテンツ」の登録機能がある
  - ✓ コンテンツ数：49
  - ✓ 何をコンテンツにするか？初年度の優先度
    - 町としての重要度（『町史』は優先順位高い）
    - 中学校の総合学習で実際に活用するもの
    - 出版時にデジタルデータを同時に制作したもの
      （コンテンツ数：５、その他は紙から電子化）
  - ✓ 同時アクセス：50　（紙の本なら５０冊必要だが、
      電子なら一つのコンテンツを同時に使える）
    - アクセス数：設定による。
    - システム上は、同時アクセスの制限をしないことも可能

※詳細　宮澤優子氏（高森町立高森北小学校・学校司書／高森町子ども読書支援センター）
「電子図書館、どう育てる？」 令和４年度第１回信州発・これからの図書館フォーラム
Youtube動画　１：３４：５０～
https://www.youtube.com/watch?v=AArREG-uH9k&t=7132s

信州サーチによるカテゴリーを越えた検索・発見の仕組＋コンテンツサプライの仕組

本を読みたい

ユーザーとしての住民

知りたい・学びたい

すべての住民が、いつでもどこからでも、さまざまなバリアを越えて、等しく情報を入手できる（リアルとバーチャルのベストミックス）
→人々の学びを起点とする 「読む」「知る」「学ぶ」ための情報基盤づくり
→地域コミュニティの中に溶け込む図書館

各図書館ウェブサイト

ワンストップで探せる・見つかる

信州ナレッジスクエア

信州サーチ

信州ブックサーチ

県立長野図書館電子書籍サービス

「デジとしょ信州」

- 協働図書館への参加（電子書籍の選書）
- オリジナルコンテンツ搭載（EPUB形式）

信州デジタルコモンズ

- オリジナルコンテンツ搭載（PDF,画像、動画、音声）

eReading 地域資料

- オリジナルコンテンツ搭載（PDF→eReading形式）

コンテンツサプライヤーとしての市町村図書館・室

サービス窓口
レファレンス

- 地域の情報拠点：人・地域・情報が直接つながりあう場

蔵書

- 地域のニーズに沿った蔵書・サービス（貸出、レファレンス、地域課題解決支援、読書推進、児童サービス、高齢者支援、全域サービス網整備等）

独自デジタル
アーカイブ

- 必要に応じて：個別の電子書籍サービスや独自のデジタルアーカイブを構築
- 協働の枠組みで：書籍やオリジナル地域資料の電子的な提供力・発信力をさらに向上

「ジャパンサーチ」や「NDLサーチ」等との連携

プラットフォーマーとしての県立図書館

情報システム基盤のプラットフォーマー＋連携活動のプラットフォーマーでありたい

知りたい
読みたい
リアルに
つながりたい

来館　貸出　検索　貸出・閲覧

居ながらにして
図書館の情報
やサービスを
利活用したい

物理的な図書館(室)

県立図書館
県内１館

- 調査相談 レファレンス
- 図書の閲覧・貸出
- 信州 学び・創造ラボのフォーラム等

市町村立図書館
本館５６館

- 調査相談 レファレンス
- 図書や雑誌閲覧・貸出
- 読み聞かせ・講座・イベント等

町村公民館図書室
２１町村

- 図書や雑誌閲覧・貸出イベント等

ハイブリッド図書館

リアルとバーチャルのベストミックス

連携活動のプラットフォームとしての役割も

電子的な図書館

「デジとしょ信州」
市町村と県による協働電子図書館
（一般書の電子書籍貸出サービス／オリジナルコンテンツ）

県立長野図書館
電子書籍サービス
（専門書の閲覧サービス）

オンラインサービス
- 調査相談レファレンス
- 利用登録、ネット予約
- 動画配信
- イベントのハイブリッド開催

信州ナレッジスクエア

歴史資料アーカイブ
絵図、古文書、写真等

探究・郷土学習支援
「私たちの信州学」 他

公的デジタル資料庫
デジタル化された行政資料、公刊物

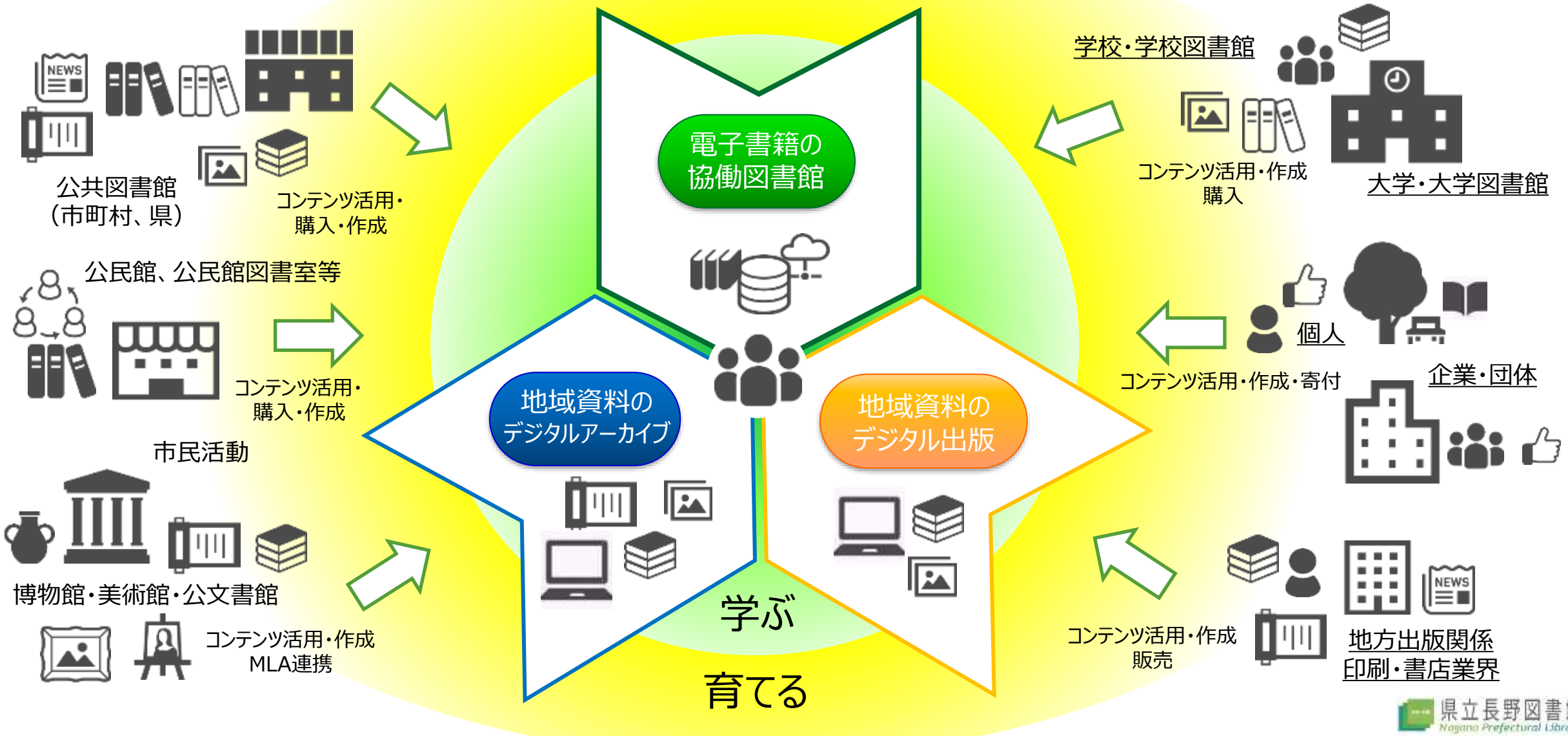
発信の場
県民の学びの成果発信領域

「信州デジタルコモンズ」

※点線箇所：PDF搭載が可能になったことで実現可能性が高まった

さらに大きな枠組みで共有していきたいビジョン（検討中）

みんなで学ぶ・みんなで育てる「all信州電子図書館」⇒ 地域文化の創造・地方創生



信州の「地域情報資源」をより豊かにしていくために

- 確実な持続性と堅固なシステム基盤
  - セーフティネットとしての位置づけ、コンテンツの相互保全、継承

    ※ 基盤整備は県で。予算を獲得し続けること

取組に共通すること：
「使ってもらう」だけではなく
「共に知り、共に創る」観点
＋対話とプロセスを重視

- 人々の活動成果や暮らしの知恵が蓄積され続ける文化
  - 自治体内の関連部署（生涯教育、学校教育、観光、地域・産業振興など）、住民や企業との協働も視野に
    - MLAの文化資産
    - 公民館や学校活動で生み出されるもの
    - 日々の営みの中で生み出されるもの

    ※ コンテンツの作成費・活動の経費はそれぞれで

いついかなる時も、人々の
「知る」「学ぶ」を支えるために。
「地域社会」の過去・現在を
未来につなぐ

- 国立国会図書館や、さまざまな機関、活動との連携
  - システム基盤、コンテンツ作成、人材育成、コンテンツ活用の場づくり

※ *If you want to go fast, go alone. If you want to go far, go together.*
早く行きたければ、ひとりで行け。遠くまで行きたければ、みんなで行け
…by DX推進課

以下、補足資料：信州の図書館事情（山岳が多く、多様な文化圏を誇る）

- 人口　**2,023,201人**(2022.7.1現在)
- 自治体数　**77**（市：19 町：23 村：35）
- 公共図書館数　**120**　館（本館71　分館49）
- 条例に基づく図書館が未設置の自治体**21**　（町：6 村：15）
  （9月23日　大桑村図書館オープン！）

未設置率　**27%**

未設置自治体総人口／県総人口　＝　4％

- 人口１人当蔵書冊数（紙媒体の本）
  （2019年度末・県立長野図書館除く）

県内10広域の平均値：
0.7冊～10.1冊（地域によるバラつきが大きい）

佐久地域：	10.1	木曽地域：	0.7
上田地域：	5.2	松本地域：	4.5
諏訪地域：	7.0	北アルプス地域：	7.8
上伊那地域：	6.9	長野地域：	3.3
南信州地域：	9.3	北信地域：	3.4

※長野地区：県立長野図書館を除いた値

情報の形も、コミュニケーションのあり方も変わってきている

これまでどおりで良いのかな？

各市町村、多様な文化・地域の特色と横のつながりを活かす施策が必要

※東信地区、南信地区、中信地区、北信地区の4つのエリア10広域に区分される。

参考：県立長野図書館の「ミッション・ビジョン」共知・共創の広場（2021年7月16日策定）

使　命（Mission）

県立長野図書館は、「共に知り、共に創る広場」として、
信州に関わるすべての人々が「自由に考え、意見を表明し、社会に参画し、意思決定することで、
個人と社会の幸福を追求する」という、民主的社会の普遍的な価値を支えるため、
人類社会の文化的な発展と平和な世界に、将来にわたって寄与しつづけます。

展　望（Vision）

「知る」・・・情報の改革：いつでもどこからでも、時間と空間を越えて、すべての人々が等しく情報を入手し、活用し、成果を発信できるよう、人生を豊かにする創造的な学びの情報基盤を整え、情報格差を解消し、次世代へと継承していきます。

「出会う」・・・場の革新：考え、対話し、体験することを通じて獲得できる「実感ある知」の循環を生み出し、新しい価値を創り出すために、実空間と情報空間が融合する、開かれた場を形成します。

「育む」・・・人の変革：いかなる社会変化にあっても、「知る自由」「学ぶ自由」を保障する図書館の本質的機能を、技術革新を取り入れながら最適化し、最大限活用できる人づくりに貢献します。

https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/documents/96/r4_gaiyou_ocr.pdf

参考：県立長野図書館の「ミッション・ビジョン」共知・共創の広場（2021年7月16日策定）

行動指針（Value）

協働します：（Collaboration　コラボレーション）

県内外の図書館や各種の文化施設・社会教育施設を始め、広く教育・学術界、産業界や社会的活動を行う人々と力を合わせます。

接続します：（Connecting　コネクティング）

さまざまなコミュニティや人々が信州の自然や社会の営みの中で日々生み出す、「現場にある知」、「暮らしの中の知」を、つなぎ合わせます。

強みを生かします：（Competency　コンピテンシー）

図書館の普遍的な役割である資料・情報の収集・保存・発信・活用について、専門的な知識・スキル・マインドを持つ職員を育成し、強みを生かして社会に貢献します。

挑戦します：（Challenge　チャレンジ）

市町村や公共図書館等の取組を下支えし、展開するとともに、自ら先進的なサービスを実験・実践することを通じて、人々と共に成長する、変化に強い図書館づくりに挑戦しつづけます。

https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/documents/96/r4_gaiyou_ocr.pdf

参考：県立長野図書館の「ミッション・ビジョン」共知・共創の広場（2021年7月16日策定）

事業計画（Action Plan）

https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/documents/96/r4_gaiyou_ocr.pdf

(1)資料・情報：いつでも・だれでも・どこからでも、県民が生涯にわたり「知る・学ぶ」ための「資料・情報」を、収集・保存・活用・発信する情報基盤を進化させ、蔵書構成のあり方を総合的に見直します。

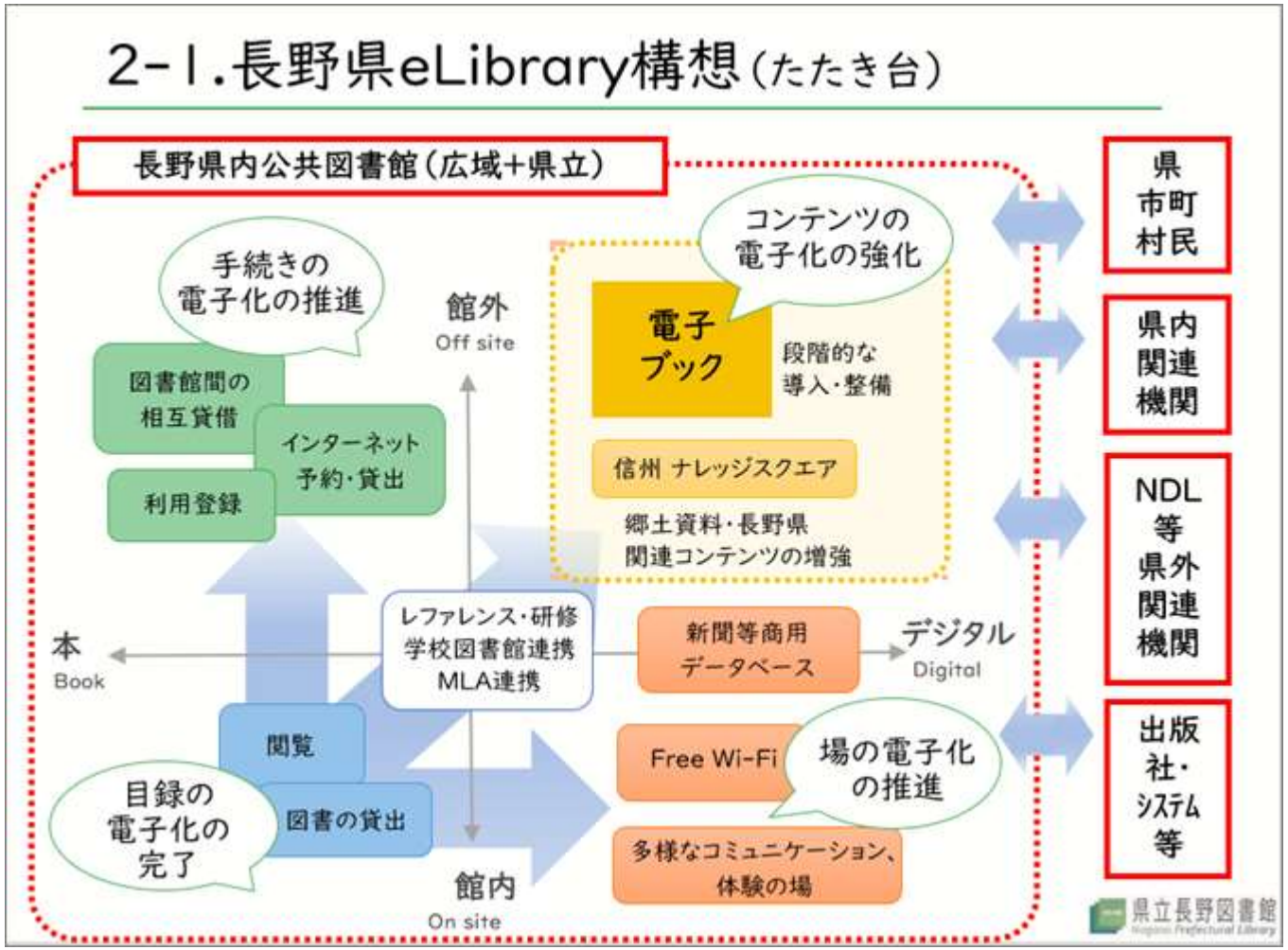
(2)空間・場：実空間である図書館の１～2階のフロア、3階の「信州・学び創造ラボ」を情報空間とつなぎ、それぞれの強みを生かし、融合させながら、知的活動が展開・循環する「場」を進化させます。

(3)人材育成：潜在的な利用者を含めた、全ての県民の学び合い・知的な活動を支えるために、市町村図書館を始め、文化施設・教育機関、県内外の関心を共有するすべての人々と協働し、共に成長していきます。

(4)長野県eLibrary計画：図書館の機能を「紙」と「デジタル」、「館内」と「館外」の軸で4つのカテゴリーに分類し、それぞれ最適な方法で デジタル化・ネットワーク化を進め、図書館機能・サービスを進化させます。「信州 ナレッジスクエア」の拡充と、電子書籍サービスの新規導入の検討を重点的に進めます。

※令和３年度 主要事業実施状況　（令和3年度第2回県立長野図書館協議会 資料No.2）
https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/documents/99/shiryo2.pdf

参考：長野県eLibrary構想を、信州版図書館DXと位置付けた



- **「信州ナレッジスクエア」**
  - オンラインで使えるサービスのメニューとして紹介
  - MLA機関のデジタルアーカイブのプラットフォームは準備ができていた
  - 現実には、市販の書籍や新聞へのニーズが高い
  - コロナ禍（休館の代替）での即効性はデジタルアーカイブより電子書籍。需要と供給のミスマッチ
  - 「無料の貸本屋」からの脱却を目指す方向性とのジレンマを抱えつつ・・・

- **「電子書籍」の導入は必須**
  →検討開始

コンテンツの電子化については、デジタルアーカイブの拡充と電子書籍の新規導入を事業の2本柱とする

中期的・長期的な方向性：改革事業を受け継ぎ、さらなる進化を目指す

2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024 2025 2026 2027 2028 2029 2030

長野県総合5か年計画 第2次教育振興基本計画	長野県総合5か年計画 第３次教育振興基本計画	長野県総合5か年計画 第４次教育振興基本計画	

図書館改革事業 → **図書館進化事業** →

- 本の館から、情報・知識基盤社会の「知の拠点」へ
  「情報」の改革
  「人」の変革
  「空間」の革新

- 「情報」「空間・場」「人」を長野県eLibrary計画で更に進化
  →DX化（デジタル化・ネットワーク化）を「手段」として活用
  →目的は人がより良く生きられること：リアルとバーチャルのベストミックス
- 県立長野図書館ビジョン・ミッション策定：「共知・共創の広場」
- 市町村との連携による電子書籍サービスの導入・展開
- 信州・知のポータル「信州ナレッジスクエア」による新たな展開

DXを手段とする

- **すべての県民が等しく情報にアクセスし活用できる基盤を拡充**
- **情報を活用する力が身につけられる仕組みづくりと展開**

DCを前提とする

DX：デジタルトランスフォーメーション：
提唱者のストルターマン氏による定義：「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」こと

DX（デジタルトランスフォーメーション）／DC（デジタルシティズンシップ教育）

● 図書館DX ：2020年9月発行『LRG』でDXという概念に初めて触れる

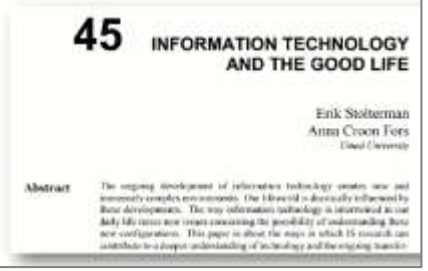
「伊藤大貴の視点・論点」：ニューノーマルにおけるこれからの図書館－オンラインとオフラインの境界のない世界へ」

DXの定義

２００４年
E. ストルターマン＆A.クルーン
スウェーデン・ウメラ大学

ICTの浸透が、人々の生活（人生）を あらゆる面でよりよい方向に変化させること

- 哲学的（ソクラテス的）な概念
- 松尾芭蕉の「不易流行」（流行にこそ不易の本質がある）
- SDGs、ウェルビーイング、ウェルネスなどの考え方に共通点


45 INFORMATION TECHNOLOGY AND THE GOOD LIFE

Erik Stolterman
Anna Croon Fors
Umeå University

Abstract

DX

私たちの社会や生活を「よりよい方向」へ変化させる

DXを達成するには、単なるICTの普及ではなく
「ICTの健康的で、幸福な普及」が必要
そのためには、教育の力も必要

⇩

DC

デジタル・シティズンシップ教育
（デジタル時代のよき市民を育む教育）

※３つのスライドの典拠：
芳賀高洋氏（岐阜聖徳学園大学）「学校教育DXとデジタル・シティズンシップDC）」から引用
https://www.city.gifu.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/003/927/2021-5siryou1.pdf

DXに至る３つの段階

第１段階 アナログの情報を、デジタル情報に変換する

★日本社会、とりわけ、日本の学校教育は長らく、この第１段階で停滞してきた

↓

第２段階 組織や構造のプロセスをデジタル化する

↓

第３段階 社会と私たちの生活がよりよい方向に変化

1. 図書館等の文化・社会教育施設が所蔵する資料のデジタル化・公開
2. サービスや業務、活用のプロセスがデジタル化されていく
3. 文化・社会教育施のさまざまなリソースがデジタル化されることで、オンラインはもちろん、リアルな場での利便性をも高め、両者の垣根をなくしていく

館長会議資料：地域と共に成長する図書館を支える職員：人材育成のために

●さまざまな研修機会をご活用ください

✓ 書面審議：公共図書館部会総会資料「令和4年度事業計画」、研修計画

- **【重点事業】ICTの活用によって、持続性・発展性が高い図書館業務・サービスを目指す**
- **令和4年度は、特に協働電子図書館を推進する**

✓ **これからの公共図書館フォーラム**：年間4回程度開催：MLで随時ご案内

- **9月3日（土）テーマ「電子図書館、どう育てる？（仮）」**
  講師：北海道デジタル出版推進協会（HOPPA）林下会長、札幌図書・情報館　淺野館長
  県内の印刷・出版・図書館界が同じテーブルにつき、郷土資料をオリジナルコンテンツ化する方策を考える

✓ **これからの公共図書館研究会（通称「これ研」）：**

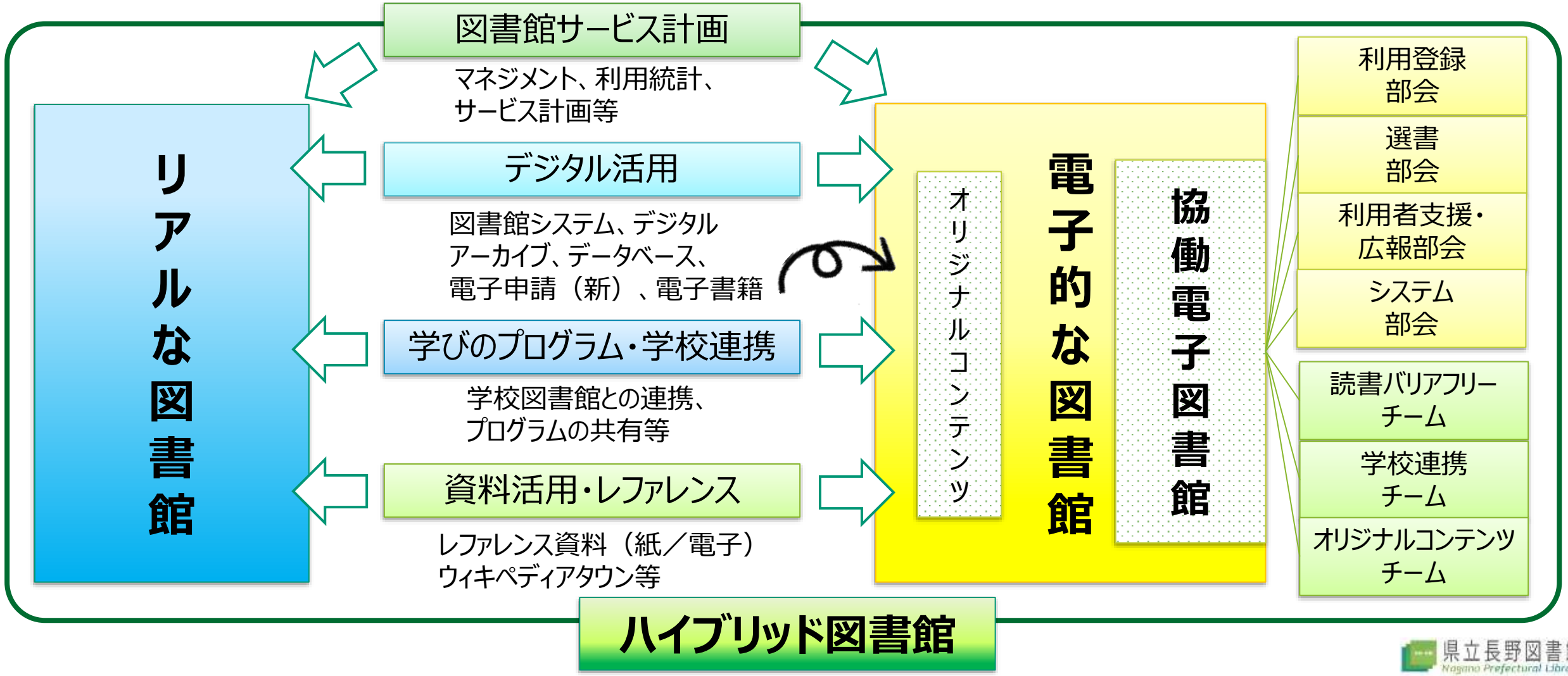
- **中堅職員研修としての位置づけで、2019年度～4つの研究会を実施。2021年度の参加者：108名**
- 長野県の公共図書館職員が、主体的に参加、運営する中で、未来につながる課題や悩みを共有し、それぞれの経験や実践を持ち寄り、伝え合い、教え合いながら、みんなで成果を形にすることを目的に、館や地域を超えてつながり合う会
- **図書館サービス計画、デジタル活用、学びのプログラム・学校連携、資料活用・レファレンス**

※令和4年度 長野県公共図書館長会議　（ワークショップテーマ：ウイズコロナ時代の公共図書館経営を考える ）　2022/06/03
https://researchmap.jp/izumimi/presentations/40124471

館長会議資料：「これ研」と協働電子図書館の「部会」との関係性

- 「これ研」：ノウハウ共有・研究の場
- 「部会」：得意分野を運営に生かす場

館を越えたOJT(On the Job Training)の効果に期待



館長会議資料：「これ研」参加者の声

県内の各館の方々の取り組みの実例を自館で紹介し、自館のレファレンスの参考にさせていただくことがいくつもありました。
参加者の方が積極的に実例を紹介していただいたおかげだと思います。
同じ会に参加させていただいたよしみで、部会のメンバーの方に、別件業務で連絡を取らせていただくなど、図書館間の連携にも役立てさせていただくことも出来ました。【資料活用・レファレンス】

サービス計画の必要性は理解しつつも、なかなか作成まで至らない現状です。他館のものを見せていただいてとても参考になりました。
次年度は、統計関係の話がもう少しできると嬉しいです。
【図書館サービス計画】

分科会に出た担当者が、他の職員に各分科会でどんなことを話し合ったか報告する機会を設け、全体で共有するようにしています。
県内のいろいろな情報を共有できるよい機会なので、ぜひ今後も継続開催をお願いします。【デジタル活用】

会計年度職員なので予算や総合計画等詳しくわからない面もあるのですが、他自治体の館長さんたちの話を聞きながら、自分なりにできることをあれこれ考えるのは勉強になる時間でした。
【図書館サービス計画】

経験が浅く、いつも確実な回答ができるか不安に思っているのですが、たくさん情報交換ができて勉強になりましたし、モチベーションも上がりました。レファレンスはベテラン職員がいないと館内での研修がやりづらいと思いますので、今後も研修にはぜひ参加していきたいです。【資料活用・レファレンス】

各図書館が実際に行なっている事例を知ることができたのはもちろん、そういった学びに関する情報を共有できる場に参加することができた。
【学びのプログラム・学校連携】

2021年度の感想から

館長研修資料：「これ研」のグランドルール⇒協働電子図書館とも共有できそう

●これから研究会グランドルール

みんなで、やる。
共に目指す、これからの図書館を考える

みんなが、やる。
それぞれの館が、できることを探す

みんなと、やる。
ときどき集まり、思いや悩みを共有する

●「みんな」の一員になるために

・参加しやすい環境
（オンライン会議、開催時間の調整等）

・参加しやすい心情
（職場の後押し、理解と応援）

年3回
2時間ほど

・フラットな場づくり
（経験や立場にとらわれない関係性）

県立長野図書館　研修・実践・イベント・プラグラムのマッピング（たたき台）

実務・実践

研究・共有

研修

「デジとしょ信州」運営委員会

- 読書バリアフリーチーム
- 学校連携チーム
- オリジナルコンテンツチーム
- 利用登録部会
- 選書部会
- 利用者支援・広報部会
- システム部会

これからの公共図書館研究会（中堅研修＋αの位置付け）年数回・オンライン

- デジタル活用
- 図書館サービス計画
- 資料活用・レファレンス
- 学びのプログラム・学校連携

ステップアップ専門研修
図書館協会主催・デジタル系

初任者研修（レファレンス実習）
県内4か所現地開催（秋）

初任者研修（講義）
DVD配布（5～6月）

館長研修（9月）

館長会議（5月）

信州 知の連携
フォーラム
ワークショップ
（年1回）

地域の専門職研修プログラム

- 林業士入門講座
- 社会教育主事（社会教育士）等

ラボ・デザイン会議
（年数回）

信州発・これからの
図書館フォーラム
（年３～4回）

ラボカフェ
（年数回）

高め

特定の目的への指向性

低め

図書館プロパー系　←両者は二項対立ではなく、往還するもの→　社会と繋がる系

今後の関連イベントのお知らせ

● ステップアップ研修「デジタルと紙のベストミックスで目指す図書館の未来とは？」

- 日時：2023年1月31日（火）14:00～15:30
- 主催：長野県図書館協会　専門研修
- 対象：図書館協会に加盟している館の方（加盟されていない場合、個別にご相談ください）
- 内容：これまで培ってきた図書館サービスに、「デジとしょ信州」や「信州デジタルコモンズ」等、デジタルアーカイブのサービスを組み合わせ、身近なところから「ちょっと未来の図書館」を共に考え、実践につなげるきっかけとします
- 申し込み方法：図書館協会のウェブサイトでチラシをダウンロードしてご参照ください
  https://www.nagano-la.com/

近日中に
広報予定

● 「信州 知の連携フォーラム」リレー式ワークショップ
～松澤宥アーカイブの信州デジタルコモンズでの公開を事例に～

- 日時：2023年2月21日（火）午後（予定）
- 主催：県立美術館（企画中）
- 対象：県内MLA（Museum, Library, Archives）関係者
- 内容：松澤宥（下諏訪町出身の世界的芸術家）関係コンテンツをデジタルアーカイブ化する計画を事例に、具体的に考える場とします
- 申し込み方法：詳細が決まりましたら別途ご案内します

関係者どうし
お誘いあわせのうえ
ご参加ください！

参考：第12期長野県生涯学習審議会「提言」

基本理念　**すべての人がつながり、学び合い、共に変わり続ける“シン・生涯学習社会”へ**

真　生涯をかけて自己変容し続ける「真」の生涯学習へ

- 大人は「学び終えた人」ではない
- だれもががマルチステージの人生を実現させていく意思と能力を、生涯にわたり持ち続け、それぞれが思い描く幸せに向かって自己変容していくことができる
- 学びによって、だれもがWell-beingを実感できる長野県を目指す

新　いつでも、どこでも、だれとでも。最新のテクノロジーを活用した「新」しい学びの推進

- 最新のテクノロジーを最大限活用
- 年齢によらず「いつでも」学べる
- 場所の制約なく「どこでも」学べる
- 「だれとでも」つながり、学び合える
- 学びへの希望が高まり、日本一学びやすく、学んだ成果を活かせる長野県へ

信　学び合いから「信」頼を紡ぐ。一人ひとりが活きる持続可能な地域社会へ

- 「答えのない問い」に対して、地域の特性に応じた「自分たちの答え」を探究していく
- 対話を繰り返しながらつながり、知恵を持ち寄り、信頼を紡いでいく
- 支える、支えられるという関係を越えて、みんなが主役に
- 誰一人取り残されることのない、持続可能な地域社会を創っていく

施策の方向性

「生涯学習者」の育成

- ✓ 子ども達の好奇心や感性を刺激し、探究的な学びにつながる環境づくり

働く世代、子育て世代の学び直し、つながりづくり

- ✓ リカレント教育・リスキリングの推進
- ✓ 学びほぐし、共創のためのサードプレイス（第３の居場所）づくり
- ✓ 子育て世代の居場所づくり

シニア世代の多様な学びの推進

- ✓ 年齢や心身の状態にかかわらず学び合える場の充実

学びの新しい基盤整備

- ✓ 図書館、公民館、博物館等の社会教育施設におけるデジタル基盤や連携を強化（サービスのデジタル化、資料のデジタルアーカイブ）
- ✓ オンライン学習の活用推進
- ✓ デジタル技術を活用したバリアフリー推進

デジタル・ディバイドの解消

- ✓ 社会教育施設等での情報リテラシー向上のための学習機会の提供
- ✓ 多世代によるデジタルツールの学び合いの場づくり

社会的包摂の推進

- ✓ 障がい者の生涯学習の推進
- ✓ 国籍、経済状況、孤立・孤独等、様々な事情で学びの機会に恵まれていない人、困難を抱える若者等への学習機会の提供

多様性を活かした地域コミュニティづくり

- ✓ 世代、職業、個性が混ざり合い、誰もが仲間づくり、地域づくりができる公民館活動の推進
- ✓ 公民館等の社会教育施設で、地域住民に寄り添いコミュニティの課題解決力を引き出すコーディネーターの育成と連携
- ✓ 学校と地域、家庭が互いに成長するスクール・コミュニティの推進

※典拠
「これからの生涯学習・社会教育の充実に向けた提言」(第12期長野県生涯学習審議会)
（令和4年10月12日）
https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/bunsho/goannai/shingikai/shingikai/shogai/

いつでも、どこでも、だれとでも。最新のテクノロジーを活用した「新」しい学びの推進

- **最新のテクノロジーを最大限活用**
  - 年齢によらず「いつでも」学べる
  - 場所の制約なく「どこでも」学べる
  - 「だれとでも」つながり、学び合える
  - 学びへの希望が高まり、日本一学びやすく、学んだ成果を活かせる長野県へ
- **学びの新しい基盤整備**
  - 図書館、公民館、博物館等の社会教育施設におけるデジタル基盤や連携を強化（サービスのデジタル化、資料のデジタルアーカイブ）
  - オンライン学習の活用推進
  - デジタル技術を活用したバリアフリー推進
- **デジタル・ディバイドの解消**
  - 社会教育施設等での情報リテラシー向上のための学習機会の提供
  - 多世代によるデジタルツールの学び合いの場づくり